

弥生時代の青銅武器の鑄型をセットで発見！！



たまごちゃん

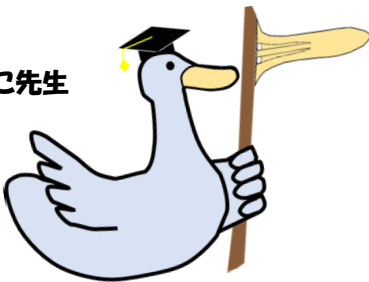
テレビや新聞でも報道されたピヨ！
いまいちピンと来てないんだけど、
すごい発見らしいピヨ！！

「青銅器」ってなにピヨ？



高畑遺跡出土の銅戈の鑄型

があこ先生



銅や錫^{すず}などの合金で作られた道具のことです。

遺跡から見つかる青銅器は、文字通り「青い」のですが、
これは銅に特有の「緑青^{りょくしょう}」という緑色のサビが出ているため
で、作られた当時は黄金に輝いていました。

青銅器は、弥生時代に中国や朝鮮半島からもらされ、しだいに日本列島でも作られるようになりました。西は北部九州から東は中部地方にかけて、武器（剣・矛・戈）や、銅鐸、銅鏡などが、見つかっていますが、北部九州では武器形の青銅器が多く製作・使用されました。

武器形青銅器は、伝わった当初は分厚くて鋭利な実用品で、有力者の墓から副葬品として発見されます。しかし、時代を経るにつれ大型化して鋭さを失い、祭器（まつりの道具）として使用されるようになりました。墓には副葬されなくなり、土の中にいくつもの青銅器を埋めて、再び取り出すという事例が確認されています。武器形青銅器を使用するまつりの解釈には、有力者たちの権力を高めるため、悪霊や外敵を追い払うため、豊穡を願うためなど、様々な説があります。



吉武高木遺跡3号木棺墓の副葬品



てらふくどう
銅戈埋納遺構(小郡市寺福童遺跡)

弥生時代の人々は、青銅器が放つ黄金のきらめきにどのような思いを託していたのか、想像はつきません。

【関連リンク】「[弥生時代の青銅武器の鑄型をセットで発見!!](#)」（HP「福岡市の文化財」内）

小郡市教育委員会編 2008『[寺福童遺跡銅戈埋納遺構](#)』小郡市文化財調査報告書 235(全国遺跡報告総覧内)